



国会議員要請



300人が参加
3月4日(水)

現場の声を届けました 『国立大学病院の危機的状況への緊急の支援を』

教育・研究の維持、処遇改善と人材確保、
高度医療を担う国立大学病院の機能維持にむけて



参議院議員会館講堂

国会議員への要請に先立ち、参議院議員会館で「意思統一集会」が開催され、医療3単産を代表して日本医労連の佐々木悦子委員長

3月4日、全大教、日本医労連、自治労連で構成する「医療3単産」は「26春・中央行動」を展開しました。全国から集結した300人を超える医療・介護・福祉の仲間とともに国会議員への要請行動を行い、国立大学病院をはじめとする医療現場の危機的状況を直接、国政の場へと届けました。



全大教病院協議会議長 長谷川 信



日本医労連中央執行委員長 佐々木 悦子

報酬の10%以上の抜本的な引き上げが不可欠だ」と力強く行動提起を行いました。全大教からは、国立大学病院が置かれている深刻な実態を報告しました。国立大学病院は、小児医療や周産期医療といった不採算ながらも地域に不可欠な政策的医療、および高度医療を担う重要な役割を果たしているなか、相次ぐ物価高騰や施設設備の維持による経営圧迫は限界に達しています。このままでは「教育・研究の時間が削られるだけでなく、地域医療の最後の砦としての機能さえ維持できない」という現場の声を強く訴えました。今回の行動は国会議員への要請が中心でしたが、今後は厚生労働省への要請や記者会見も予定しています。

全大教病院協議会として引き続き関連組織と連携し、医療現場で働くすべての教職員の労働環境と待遇の改善を求めていきます。誰もが安心して働き続けられ、安全・安心な高度医療を適切に提供できる体制を確立するため、今後も全力で活動を行っていきます。(病院協議会議長長谷川信)

全大教新聞

2026年4月10日

第442号

【発行所】

全国大学高専教職員組合 (略称・全大教)



[PDF版 (全面カラー)]
http://zendaikyo.or.jp/?page_id=107

[電話] 03-6802-4250

[HP] <http://zendaikyo.or.jp/>

[所在地] 〒110-0012
東京都台東区竜泉
2-20-15 都築ビル2階

* 組合員の購読料は組合費に含まれています

国立大学等 運営費交付金の増額を！

研究費不足、人件費不足、授業料上げの問題を解決するために

署名はこちらから ▶ <https://www.change.org/Zendaikyo20260210-20260531>



「オンライン署名」実施中

期限 5月31日まで

教育研究を未来につなぐために、
ご協力をお願いします

運営費交付金削減

2004年の国立大学法人化以降、国立大学は約1,600億円(13%)、国立高専は約77億円(11%)削減。

社会への影響

地域医療や教育、社会経済の弱体化。授業料上げで学生・家庭への負担増加。

教育・研究経費不足

研究費の減少、教育経費の減少、設備の老朽化。教育・研究の質の維持が困難。

解決策⇒抜本的な増額を！

教育・研究は日本の未来を支える基盤的インフラ。教育・研究を支える運営費交付金は未来への投資。

人件費不足、人材流出

賃上げの遅れ、任期付き雇用の増加、後任不補充。優秀な人材の確保に支障。

署名QRコード



注 「全大教署名」と真ん中に記載しているQRコードのみをご利用下さい

今月の紙面

- 2 春の合同地区別単組代表者会議
- 2 「近畿・中四国地区合同(2月28日)」
- 2 高専単組代表者会議(3月1日)
- 2 論壇「データと仮説がかみ合う瞬間
- 2 エル・ニーニョはパングラデシユの洪水を引き起こすか」香川大学教育学部教授 寺尾 徹

- 4 単組からのレポート
- ・神戸大学
- ・「教は力で団体交渉頑張っています!!」
- ・滋賀県立大学
- ・「組合サロン」や「お灸教室」を通じた交流の場づくり